



吹田文明

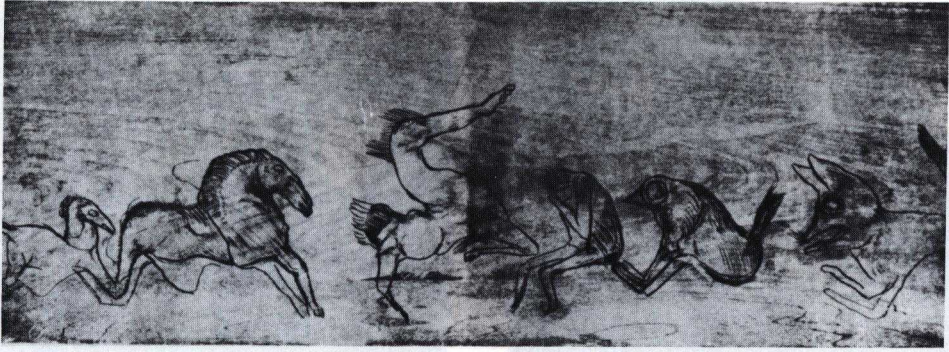
「五美大卒業制作展」が、今年東京都美術館で開かれた。東京の5つの美術大学による合同卒業制作展である。このように、近年美術大学の横の連絡が広まり、全国美術大学の学長会議が提唱されている。

絵を描き、ものを作る作業が個人的で孤独なものであるだけに、あまりに個人的であり過ぎた美術教育者が、研究の交換、行政への運動と漸く自己主張を始めたと言える。これ等に先鞭をつけた「大学版画研究会」は、昭和49年11月発足以来、学校の形式や形態をこえて、美術大学に於ける版画の最も望ましい在り方を模索し続けて来た。学生中心の「大学版画展」もその一つの行事であり、学生間の交歓・交流、作品・資料の保存に効果を上げている。

版画教育の調査、研究を進めることは、版画のみならず、美術大学全体の在り方、その中での版画の役割り、形態を求めることになる。

5年を迎える大学版画研究会は、新しい美術教育者の一辺を切り開く先兵から、より内容的な深まりに発展しつつある。それは、次代の望ましい美術大学への引金になるだろうと、自負している。

この大学版画研究会に厚意ある方々の一層のご指導、ご鞭達をお願いする次第です。



(題名 走馬燈のように—木版・凹版)

### 小作青史

私が版画の世界に首を突っ込んでから、約20年にもなっていました。生れついでの怠け者のせいか、私が一貫して追いかけてきた事は、如何にして少ないエネルギーで(経済的なものも含めて)簡単に、楽に出来るかという事の様です。

色々な方法を試みて来ましたが、ここでは、石版画の水と油は反発し合う性質を利用した方法に限って、あとづけてみようと思います。

大学2年の時に石版画を始めました。しばらくして銅版画もやってみましたが、その頃はまだ、フランス製シャルボンネルも私達の手には届かず、亜麻仁油をボイルして、それに黒顔料を混ぜ、やっとの思いで作ったインクも、版にのせても、その殆んどをボロ布で拭き取られてしまうので、長続きしなかった様です。

何年か後、銅版画も石版画の様に金属の版面を保水性にしてやれば、水で混しながらインクを盛る事が出来るのではないかと思いつきました。

**ビュランによる** まず、砂目立てのしてあるリト用ジंक板にアラビアゴム液を塗り、油性分が着かない状態にして、ゴム膜の上からビュランで彫刻をします。彫るそばから油性インクなりグランドを擦り込み、失敗した個所にはHゴムを塗ります。完成した時点で、アラビアゴム膜を洗い落して、水拭きをしなが、リト用のローラーの角にインクを多量につけ、溝に押し込み、銅版用プレスで刷り取ります。この方法が暫く続いた様です。

**エッチング・アクアチントによる** 次に、砂目立てを研磨に出さなくとも、硝酸の薄い液に2~3秒浸けるだけで、十分保水性のある版面になる事を発見しました。この事により砂目立てを後にもって来る事が出来、ビュランだけでなく、エッチング・アクアチント、その他全ての銅版画技法に応用出来る様になりました。まず、エッチング、アクアチント

で製版をし、グランド等を落します。ここまでは一般の銅版画と同じです。つぎにプロパー液を全面に溝の中までむらなく塗り、乾かします。その上に同じ様にグランドを塗ります。朴炭等で凸面の膜を磨き落とし、アクアチントの部分はスクレーパー等で調子を整えます。そして硝酸液に2~3秒浸け、版面がうすぐもり状になったら液から引き上げて、水洗いをし、強いH液を塗り2~3分おき、アラビアゴム液を塗って製版が終了します。この方式の長所として、インクを選ばない(油性インクであれば)。大作ほどインク盛が簡単。版の持ちが良い(特にアクアチントの部分)。カラーインクが濁らず水性絵具と併用出来る等。銅板よりジंक板が酸によく反応するためが良いです。

**木版凹版による** 以前、木版凹版として、版面にラックニスを塗る方法でやった事があります。この方式を応用してみました。まず版木にゼラチンの水溶液にクローム明礬を混ぜ、刷毛で2~3回に塗り(油性分が木の繊維の中に滲み出ない様に)、ドーサ引きをし、H液・アラビアゴム液の順に塗り、乾いた版面に、彫刻刀・ニードル等で彫り、油脂分を擦り込み、水洗いして刷りにかかります。版面の木目の軟かい所ほど水が多く含まれ、堅い所は水が少ない分だけインクが付きやすいのか、画面に木目とその通りに写る様です。木版凸版、木版平版の形式でもなり立つ様です。

私がこの方式で版を作って来て思う事は、水と油性は反発し合うという化学的反應を平版の枠に閉込めておらずに、木版・銅版・石版・シルクスクリーン、あるいは凸版・凹版・平版・孔版という枠組とは別に、外の版形式にもおし拡げ、物理的方法による刷り、化学的反應による刷り方という様な組替えも考えても良いのではないのでしょうか。そこに多くの可能性が有りそうです。



和光大学

齊藤寿一

和光大学の版画室は芸術学科のカリキュラムの中に美学・美術史の「理論」と美術・デザインの「実技」との領域の中にある全く学科の中に並列された科目の一つです。週一日3時間が単位になっています。他の美術系の大学のように版画を専門に研究するアトリエではありません。他の造形理論を学んでその自分で見つけた造形を版画で確認するといっても良いでしょう。また反対に版画という美術の領域の中から、造形理論を学びとることが出来ましょう。

大学全部のカリキュラムは学生の自由選択になっていますので毎年受講する学生数は一定していませんし、教室の定員がありません。

芸術学科はたとえば版画をやる学生に版画家になることを希望してはいません。一般的な美術の基礎的知識として版画のしくみが理解してもらえることが大切であるという考え方です。

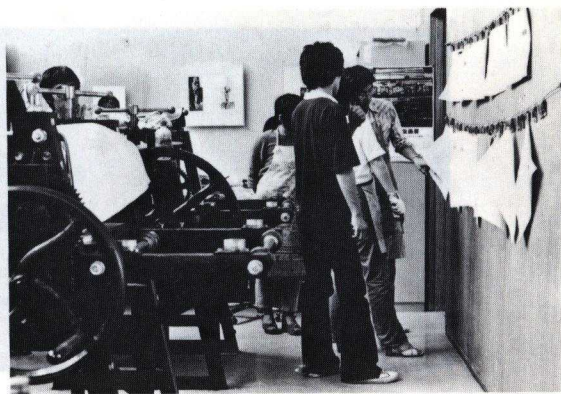
今年は「銅版画・石版画の基礎」といって実技研究としてあります。版画のクラスは80人の受講学生がいます。教師は私一人なので学生の協力が必要で狭い部室であるが一応の基礎的なことは学べるようにしています。

教室はこの銅版画の授業の外に造形研究といってシルクスクリーンを利用した理論的な造形の研究の科目があります。受講学生は70人ぐらいで、デザインを学ぶ学生に利用されます。

以上は入門課程のカリキュラムになっています。

専門課程といって各教師の専門の研究を学生と共にやってくゼミ形式の科目があります。版画の場合は機械、道具等使用するものが慣れていなければならぬので入門課程で版画に関して経験した学生を対象にしています。毎年30名ぐらい受講生がいます。このゼミの学生の中には、版画室を毎日のように使っていて版画を専門にやろうという学生もいます。

今年は版画室の様相変えがあったのを利用して三↑



愛知芸大学

吉本 弘

本学は昭和41年に開学。版画授業は絵画専攻3年次の実技授業の一環として木版・銅版・石版の集中実技(延時間12週間)を昭和43年より行なう。昭和45年大学院の開設に伴ない大学院の油画実技授業の中で選択による集中実技(延時間12週間)が行なわれる。昭和47年研修生制度ができるに及び日本画・油画・大学院・研修生のいずれかの授業が年間を通して行なわれるようになった。この間版画授業を担当する教官は非常勤講師小野忠重氏、女屋勘左衛門氏、常勤教官は日本画(1)・油画(2)・デザイン(1)の兼任であった。しかし研修生制度ができたのを機に、日本画・デザインの教官はそれぞれの専攻授業に専念のため版画授業は油画教官(2名)のみにより行なわれるようになった。昭和47年より昭和51年まで5年間油画教官と学生の熱意により年間を通して版画施設を使用していたが版画授業を担当する油画教官の過重によりやむなく昭和52年より大学院版画授業を6週間に短縮し年間(延時間18週間)の授業になっている。

年ごとに高まる版画に対する関心と版画授業の受講を希望する学生の増加に伴ない版画専門の教官によって版画講座(版画専攻コース)の開設が急がれている。

↑枚の畳を並べた可愛い木版の場も出来ました。これも学生達が自から作ったものです。

このように和光大学の版画室は、版画の基礎的なこと、ある版種では専門的なことも出来るようになっています。

銅版画プレス 3台

石版画プレス 3台

暗室・シルクスクリーン焼付



## 筑波大学

武市 勝

**概要** 本学は東京教育大学を前身として昭和49年に創立され、芸術専門学群の学生募集はその翌年からはじまった。版画室は絵画コースの授業として昭和52年よりスタートしたが、出発当初より受講を希望する学生が多くまた版画工房等の施設、設備も増加されるにともない、学内における版画のウエートが高まってきている。大学運営システムが他のそれと若干異なるため、将来版画コース（専攻）として独立した形をとるようになるかどうかかわからないが、かなり近いものになるよう検討されている段階である。

**カリキュラム** 版画の授業選択は原則として3年次以降となっている。全体の傾向としては、固定した版種にかたよることなく、併用技法の制作に重点がおかれていることが上げられよう。

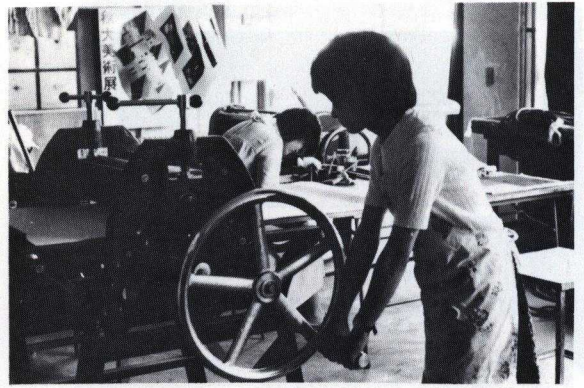
- 3年生 基礎としての版画技法演習。(凹版実習、平版実習)
- 4年生 孔版実習、凸版実習、写真製版実習、併用版による作品制作。
- MC 1年生 基礎的各版種制作及び併用版。
- MC 2年生 併用版、実験版等を含めた作品制作。

**教室** 凹凸版専用工房（約169m<sup>2</sup>）と平版専用工房（約139m<sup>2</sup>）に分かれる。受講生はMCも含めて凹版35名、平版25名、凸版10名、孔版27名程度である。

**設備** 凹版プレス4台、平版プレス12台、スクリーンバキューム印刷機1台、木版プレス1台他。

**教官** 専任 山本文彦 外国人教師 廖修平

**その他** 各国作家の作品のスライドを収集し、学生の版種等の研究に使用させている。大学会館にギャラリー（壁面約15m）があり、学生は自由に版画展等を開催できる。



## 秋田大学

笹本 純

教員養成学部内の美術科であるため、専科の大学と異なり、美術の分野ごとの専攻、コース、研究室といったものは設置されていない。油絵、日本画、彫塑、デザイン等々について、各5～10ほどの授業が開設されており、基礎から高度なものに必修、選択必修、自由の3種にランクづけされている。学生は諸分野の基礎を必修として修めた後、自分の希望に合った分野の専門の授業を選必、自由の単位として受講し、卒業制作と結びつけてゆくしくみになっている。

こうしたカリキュラム制度内で、版画関係は、今のところ窮めて不備で、集中実技の形で行なわれる銅版画及びリトグラフ、それにデザイン関係の授業である「印刷演習」で行なわれるシルクスクリーンが、その全てである。設備・施設の面でも立後れており、エッチングプレス2台、リトプレス1台、オフセット校正刷機1台、製版用真空焼枠（オフセット用）1台が、デザイン用の教室の一隅に仮寓している状態である。また、非常勤講師を含めて専任の教官の枠はなく、油絵やデザインの教官が指導に当たっているのが実状である。

しかしながら、卒業制作として版画を希望する学生もわずかではあるが出てきており、版画の必要性・重要性は徐々に認識されつつあるといえる。版画の分野の拡充は、本学美術科の今後の課題の1つとして、取り上げるべきものとされているのである。

中林忠良

はじめに前号腐蝕液の化学Ⅰの訂正をしておく。どうか次のように訂正、補充をしていただきたい。オランダ腐蝕液表中、塩素酸カリウムKClO<sub>3</sub>はKClO<sub>2</sub>、また塩化第二鉄腐蝕液の表中、塩化第二鉄FeCl<sub>3</sub>はFeCl<sub>2</sub>に訂正。その右の空欄、腐蝕の化学の項に「この腐蝕は金属間の酸化還元電位の差による。銅片と鉄イオンが接触すると、銅は酸化されてイオンとなり液中に移行する。鉄は逆に固体となって積出する、と（つまりこの腐蝕液は、他の二液とまったく違った反応をする。版が荒れないのもそのためである）。そして炭酸ナトリウム溶液で残留する塩化第二鉄を中和する、の後に、便宜的には水洗いの後、醬油をかけることで十分である、と補充しておいていただきたい。

さて、今号は腐蝕液の化学Ⅱとして、腐蝕液別による腐蝕例と稿を進めるはずであったが、薬剤の有害・危険性が重要視されてきた現在、先に有機溶剤の危険性とその取り扱いを詳述することにした。

有機溶剤の危険性とその取り扱い

〔有機溶剤〕

広義な化学的分類によれば、銅を溶かす硝酸など

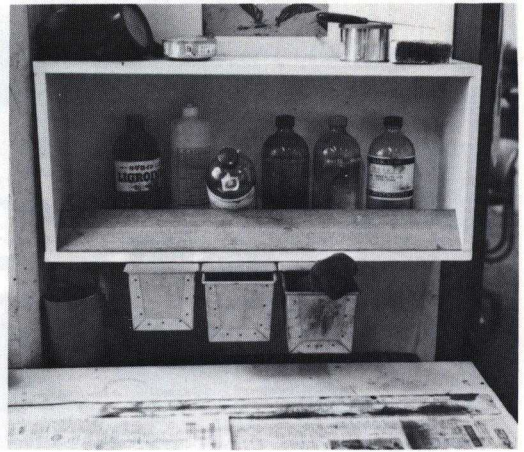
〔有害性と危険性〕

シンナー Thinner

の溶液も溶剤のうちに含まれるのだが、ここではごく一般的に、化学的組成に何らの変化を招くことなく他の物質——一般に固体——を溶解する液体、つまり銅版画制作に使われるグランドや黒ニス溶剤としてのリグロインや無鉛ガソリン、松脂やプロパーの溶剤としてのメタノール等に限定してその危険性と取り扱い上の注意を述べることにする。

溶剤の多くは石炭や石油が原料で、その分留の方法により種々に製品化されるが、銅版画に使われる溶剤は概して石油（原油）の蒸留によって得られる原油を蒸留窯で加熱してゆくとまず石油ガスが気体となって出てくるが、20～60℃の沸点範囲で蒸留すると揮発油（石油エーテル）が得られ、ついで60～100℃で工業ガソリンあるいはナフサ類が蒸留される。リグロインやベンジンはこの部類である。ついで40～205℃でガソリンが、175～325℃でケロシン（灯油）が蒸留される。残った原油はさらに中油、重油と蒸留され、最後にアスファルトが残留されるのである。メタノールは木材乾留によって得られるが、現在は天然ガスの部分的酸化によって産することが多い。

主 な 性 質	有 害 ・ 危 険 性
<ul style="list-style-type: none"> <li>○液体・無色、芳香性、水に不溶、蒸気密度3～4。</li> <li>○シンナーは、塗料・プラスチックに用いる有機溶剤で溶剤・助溶剤・希釈剤の総称であり、ラッカーシンナー、合成樹脂塗料シンナー、油性塗料シンナーに大別される。これらのシンナーはアルコール類・エステル類・ケトン類・炭化水素類・ハロゲン化合物の単独または混合したものである。</li> <li>○引火点：ラッカーシンナー約-4℃、合成樹脂シンナー約25℃、油性塗料シンナー約35℃。</li> <li>○爆発範囲 約1～10%。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○常温で引火しやすい。空気との混合ガスは点火源があれば容易に引火・爆発する。</li> <li>○人体への影響 皮膚・粘膜を刺激する。 吸入すると頭痛・めまい等を起こし麻酔状態に陥り、意識喪失、生命危険となる。</li> </ul>



実践的銅版画素材研究 2

### リグロイン Ligroin

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○無色・液体 原油の蒸留によって得られる沸点範囲75～120℃までのガソリン留分。水に不溶。</li> <li>○比重 0.70～0.75 沸点100～120℃<br/>引火点 15～20℃</li> <li>○蒸気は空気より重く低い所にたまる。</li> <li>○ベンジン(製品名)はほぼこれに類似したものである。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○引火・爆発の危険性あり。</li> <li>○人体への影響<br/>皮膚・粘膜に付着すると皮膚炎、目に入ると結膜炎を越す。蒸気の吸入は頭痛、めまい、嘔吐などを引き起す。</li> </ul> |
|---|---|

### ガソリン Gasoline

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○無色・液体 石油臭、水に不溶、原油の蒸留によって得られる沸点範囲40～205℃までのもので、自動車、航空機用には有毒な四アルキル鉛が混入されており、加鉛ガソリンと呼ばれる。</li> <li>○比重 0.7～0.8 引火点 -43～-20℃<br/>発火点 約250℃</li> <li>○蒸気密度 3～4 蒸気は空気より重く低いところにたまる。</li> <li>○爆発範囲 約1.4～7.6%</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○引火点が低く、きわめて引火しやすい。</li> <li>○爆発下限が小さいため(爆発範囲約1.4～7.6%)使用済みの空カンが残ったガソリンが内部で蒸発し、爆発範囲に達しやすいので爆発を起しやすく、充カンよりもかえって危険である。</li> <li>○人体への影響<br/>蒸気を吸入すると神経症状を起こす。飲下すると、吐気、嘔吐、けいれん、心悸亢進、呼吸困難を招く。加鉛ガソリンは、その蒸気の吸入や皮膚接触でアルキル鉛が吸収されて体内に入り神経系統を浸し、死亡させる。</li> <li>○ドラムカン等から容器に移し替える時は金属部分はすべて接地して行なう(非重動性なので流動滴下の際に帯電し、放電火花により引火爆発の危険がある。</li> </ul> |
|---|---|

### 灯油 Kerosene

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○無色または淡紫黄色・液体、石油臭、水に不溶。原油の蒸留によって得られる沸点範囲175～325℃の石油留分。</li> <li>○比重 0.75～0.8 沸点150～320℃ 発火点 228.9℃ 引火点1号灯油38℃以上、2号灯油35℃以上。蒸気密度4.5。(注) JIS K2203により1号・2号灯油に分類。</li> <li>○爆発範囲 1.2～6%</li> <li>○プリントクリーナーは製品名だが、灯油に類似したものである。ガソリンと灯油の中間留分である。引火点は44℃と高くより安全である。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○常温では引火しないが、布にしみ込ませたり、加熱等により温度を上昇させたりすると、蒸気を発生して引火する。</li> <li>○人体への影響<br/>皮膚につくと皮膚炎、目に入ると結膜炎を起す。蒸気の多量の吸入は、めまい、頭痛、倦怠、嘔吐等の中毒症状を招く。</li> </ul> |
|---|---|

トリクロロエチレン (トリクレン) Trichloroethylene CHCl<sub>2</sub>

<ul style="list-style-type: none"> <li>○無色・液体 水に不溶、蒸気密度 4.5。 石油を原料として作られる気体のエチレンに塩素を作用させて合成したもの。</li> <li>○比重 1.46 沸点 87℃ 蒸気密度 4.5</li> <li>○爆発範囲 10～6.5%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○室温では引火しないが、温度が30℃以上で蒸気濃度が高い時、あるいは酸素濃度が25%以上の時は引火する。</li> <li>○塩ビ・ポリエチレン・合成ゴム等と接すると溶解や膨潤させる。</li> <li>○人体への影響 目・鼻・喉を刺激し、皮膚に繰り返し触れると皮膚炎を起こす。 蒸気の吸入で、頭痛・めまい・吐気を起こす。貧血・肝臓障害等を起こす。 飲下すると、吐気・下痢・肝臓障害を起こす。</li> </ul>
--	--

メチルアルコール (メタノール) Methyl alcol CH<sub>3</sub>OH

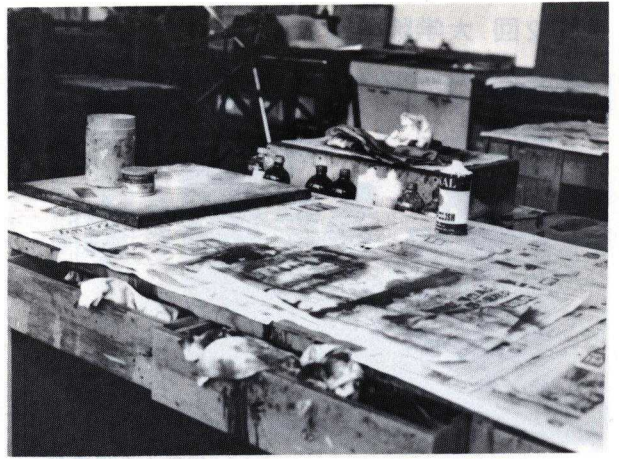
<ul style="list-style-type: none"> <li>○無色・液体、芳香、水に易溶。</li> <li>○比重 0.79 沸点 64℃</li> <li>○引火点 11.1℃ 発火点 464℃ 蒸気密度 1.1</li> <li>○爆発範囲 7.3～36%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○揮発性が大きく、引火しやすい。</li> <li>○蒸気の重さは空気とほぼ同程度なので、広く拡散して爆発性混合ガスをつくりやすい。</li> <li>○人体への影響 液体に繰り返し触れると炎症を起こす。 吸入または飲下すると、頭痛・めまい・悪心を起こし、視神経が侵され失明する。また中枢神経も侵され死亡することもある。</li> </ul>
---	--

(注)

表中、**引火点**とは、可燃性液体または固体が空气中でその表面近くに引火するのに十分な濃度の蒸気を生ずる最低温度をいう。**発火点**とは、他から火炎・電気火花等の点火源を与えないで、物質を空气中または酸素中で徐々に加熱することで発火を起こす最低温度をいう。また**爆発範囲**とは、可燃性ガスまたは液体の蒸気・粉じんが、空気または酸素と混合している場合、混合ガスの組成がある濃度範囲に達する時、火源を近づけると爆発現象が起こる。この濃度の一定範囲を爆発範囲といい、空気と混合した可燃性ガスまたは蒸気の容量%で表わされる。**蒸気密度**とは、ガスまたは蒸気の密度を、それと同じ圧力・温度における空気の密度を1として比較した値である。したがって蒸気の密度が1より大きいことは空気より重いことを示している。**沸点**は、一定圧力(通常1気圧)のもとで液体が沸騰した時の温度をいう。沸点が低ければ低いほど、常温(20℃前後)での蒸気の発生が著しく危険度も高いといえることができる。

表中、これらの規準が明示されていないところがあるが、それらはいまだ調査されていないか、定測できていないかのどちらかであると判断されたい。





実践的銅版画素材研究 2

### 〔換気と取り扱いの注意〕

上記溶剤の有害性で解る通り、銅版画制作に使うすべての溶剤は危険であり、有害である。したがって、制作と制作室には次の各項の注意と配慮が必要である。

■**引火性** — すべての溶剤は火気に非常に敏感なので、火を必要とするウォーマーやアクアチントの熱処理、ローソクの使用の場所は、溶剤を使う作業機と隔絶すべきである。溶剤の保存には、密栓はもちろんであるが多量の保管にも配慮があるべきで、陽なたを避け火気の心配のない冷暗所に保管すべきである。また、硝酸や塩酸等強い酸化剤と一緒に保管も危険である。粉末あるいは炭酸ガス消化器の適所配置は絶対条件。

■**蒸発(揮発)性** — 開栓の溶器、ビンや使用した布の放置からの溶剤の蒸発揮発は、部屋の空気を汚している。そんな制作室での長時間の仕事を考えて欲しい。使用後ビンに蓋をすること、使った布を引出しや溶器に収納すること、そこまでを一つの行程として、習慣づけるように指導されるべきである。溶器に収納した布は、蒸発を遅らし再度の使用にもすでにしみ込んだ溶剤のために、新たに使用する溶剤も少量ですむ(写真参照)。そして制作室にも換気装置を設置したい。石油系の溶剤の蒸気は床にたまり、無風状態であれば爆発範囲にも達しかねないので通風が必要である。換気扇を上部につけたら室の床近くに通気孔を開ける方がよい。電源のスパークにもそれなりの配線が必要である。

■**有害性その他** — 石油系溶剤はほぼ同じような働きをするので、溶解力が多少落ちてても有害・危険性の低いものを使うようにしたい。シンナーやガソリンより灯油がより安全なのは表の通りである。極言すれば、銅版画の制作にはごく特殊な技法を除けば、版の洗滌をグランドにリグロインを、アクアチントにメタノールを、その他の溶解洗滌には灯油を、この三種で足りるはずである。制作室の整理整頓を

いつも心がけ、使用のルールを学生間にゆきわたらせることは有害・危険物を取り扱う上で、最も大事なことである。栓のあいたビンが作業机の上に乱立している状態は厳にいましむべきものであろう。いつも決った場所に、地震などで転倒しないような形に整理されていなければならない。手や皮膚などについた溶剤は石鹼で洗い、目に入れた場合は十分流水で洗った後、医者に見せる。流しには水石鹼と出来れば眼の洗滌シャワーを備えたい。

酸性ガス用のものや有機ガス用の防毒マスクが、吸収カンの交換で両用できるものが市販されているが腐蝕室の換気、制作室の換気が適宜行なわれていればふだんの使用は必要ないが、廃液の処理や強度の腐蝕の時などのために、教室には一つ二つ備えておきたい。また最近、良質の合成ゴム手袋が手に入るが、これは酸にも強く、有機溶剤にも使えるので学生にもすすめたい。火災が発生した場合のことであるが、制作室の溶剤は高沸点のものであるから、火災の際に注水すれば、急激に沸騰して溢り飛散するので火災を拡大してしまう。そのへんにある布は溶剤が浸みている、はたき消すのも困難である。消化器の使用法を知らしておく必要がある。

最後に、石油系有機溶剤は水にまぎらず、水に浮いた状態になる。もし下水に多量に流れ込むならば手元からは見えなくなっても、地下槽あるいは下水道の中で混合ガス状態になることは十分予測されることである。単に制作室内だけのことを考えるのではなく、取り扱いには万全の注意と知識が必要とされるゆえんである。

前回同様、この研究調書は、労働省安全衛生部監修「危険・有害物便覧」および石橋弘毅編「溶剤便覧」を参照、東京芸術大学保存科学研究室の杉下竜一郎助教授並びに労働省産業安全研究所の田島泰幸氏の協力を得た。誌上をかりて厚くお礼を申し述べたい。

## ▶第2回 大学版画展報告



展覧会会場風景

### 河内成幸

1977年8月21日～8月27日、東京店・大阪フォルム画廊で開催された第2回大学版画展は、第1回展に増して学生自治に基づく展覧会となりました。展覧会の1ヶ月程前に、各大学代表学生諸君等と、小作青史氏、馬場章氏、河内成幸を交じて東京店・大阪フォルム画廊応接室にて打ち合わせが開かれました。都内大学生ばかりではなく、地方大学生をも含む多勢の学生諸君に出席頂き、展覧会の主旨などについて学生側から意見が出て、展覧会をどのような方向にしていって良いかの問題を聞くことが出来ました。また、今回の展覧会を出来るだけ学生の力によって運営して行くための、学生単位の係を決めていきました。まず展覧会搬入・搬出係を芸大・多摩美大、レセプション係を女子美大、展覧会総務を和光大、出品名簿係を武蔵美大、ポスター係を造形大等、各大学が自主的に係につき展覧会を進行することが出来ました。また、出品校も第1回展の18校81点を上回る24校99点となり、会場展示係の人達は四苦八苦することになりました。更に、会期中に各大学交歓会を行ない、会期中にも多勢の学生が集まり、学生自治の展覧会としての効果が発現してきたように思われました。学生諸君の作品も年々力作が集まり、各大学もこの展覧会に力を入れ始めてきている事がわかりました。今回の展覧会にも前回展覧会と同様、搬入・搬出にいくつかの問題があったようですが、これらの問題も話し合いによって解決して行くのではないかと思います。大学版画研究会の第3回展はより改善され、大きな成果を上げて行くことと思います。また、この展覧会が更に大きなテーマを持ち、研究会の一つのメインにするために会員の皆様の御努力が必要になってきそうです。今回第2回版画展を終了するに当り、皆様方の御助力をこの紙面を貸りてお礼と感謝を申し上げます。

## ▶経過報告

### 東谷武美

昭和52年7月11日。第14回会合。新日本造形K.K.に於て。

同年8月22日。51年度総会。大阪フォルム画廊5階に於て。前会長駒井哲郎氏に代り、吹田文明氏が後任会長となる。事務局は、多摩美術大学から女子美術大学へ（事務局長一田村文雄氏）引き継ぎ。会計報告等、会員の承認を得て決定。総会終了後、第2回大学版画展オープニングパーティ出席。買上げ作品審査（日本版画保存会の依頼による）。

同年10月28日。第15回会合。女子美術大学に於て。大学版画展終了後の所感。事務局引き継ぎ。買上げ作品整理。

昭和53年4月。運営委員会。芸大版画研究室に於て。各大学の版画教育現状アンケートを作成し、その資料を基にカリキュラム試案を練り直す等を協議。

同年5月9日。運営委員会。芸大版画研究室に於て。カリキュラム試案委員会—中林・田村・馬場（構）・吉本（オブザーバー）。アンケートの回答を検討。カリキュラム試案を練り直す。委員会終了後、運営委員会開催。—第3回大学版画展予定案、第3回会報、次回会合について協議。

同年6月8日。第16回会合。多摩美術大学に於て。大学版画展の役割分担。展覧会総務—馬場構男氏（補佐—東谷）。出品目録—日大。出品作品カタログ作成—和光大。その他の役割は出品校学生責任者が決り次第分担する事。第3回会報は昨年同様に展覧会に合せて発行する事。会報係—清水昭八氏（編集長）、小野、鎌谷、清塚、原、松川。

中林忠良氏より、大学版画教育の現状アンケートについての報告。会議終了後、大学版画展ポスター（河内—多摩美）を各大学の責任者に配布。

カリキュラム委員  
馬場構男

「版画教育の諸問題について」

大学版画研究会が発足して既に4年を経過している。そしてここ10年程の間に各大学では版画が正規の授業に取り入れられ4年制大学あるいは2年制大学のそれぞれに於てカリキュラムも固まって来ているようです。本研究会の設立当初の目的であった大学に版画科を設置することも女子美術大学で実現し版画科としてのカリキュラムも実施されている。

先般2月に各大学の版画授業の問題点についてアンケートをお願いし、出揃ったところで5月9日にカリキュラム委員会を芸大で開いた。10枚からの調査表を頂いたが短時間の会議では読み切れぬ程の内容で各委員が持ち帰り更に内容の検討を行なった。従って当日の委員会では結論らしきものは何も出なかったが、いくつかの問題点が指摘された。また当日愛知芸大から吉本先生が見えられ当校での版画授業の参考にこのアンケートが大いに役立った。そして更に同氏は帰校後各大学での版画授業の実態について詳細資料をまとめられた。この資料は今後のカリキュラム検討に非常に有意義なものである。いづれ何かの機会にご紹介したいと思う。

アンケート全体について見渡して見ると4年制大学での版画専攻の授業の実態、更に大学院での研究の在り方、また版画科として独立した場合、そして2年制大学及び一般大学での版画授業の在り方等々それぞれに抱えている問題が異なり、カリキュラムも一率に考えることは難しいことがわかった。

カリキュラムは固まって来ているといっても事態は流動的であり、版画教育が始まってから未だ日が浅いので、その教育体系の確立は暗中模索の段階にあるのが実状であり、現場担当者の苦労は並大抵ではなく、カリキュラムの実施も先生個人の考え方でかなり変化が生じている。また授業を受ける学生も常に実験台に立たされたようなもので迷いもあるものと思われる。もっと時間をかけて成果を見る必要

があろう。

4年制美術大学と他大学とのカリキュラムの違いは、根本的には版画をどう見るかの問題であろう。版画を油絵、日本画、彫刻等と同じレベルで考え、単にジャンルの違いとして扱い版画オンリーで研究を進める場合。各ジャンルの基礎技術的な扱いをする場合。あるいはデザイン・印刷等との関係をつけて扱う場合等々、これらが混在しているのが実態であり実情を良く認識すると共に版画の在り方を将来的な方向で考えて行くべきと思われる。版画がこれだけ盛んになって来ると単に絵画科だけの扱いではなく全学的な立場で考え直す必要に迫られているのではなかろうか。

アンケートに現われた具体的な問題について個々に挙げて見ると。

(1) 版画とタブローの関係

多摩美大での指摘であるが、版画授業の間にタブローの仕事を組み込んでいるが、なかなか思うような成果が上らず当事者も悩んでいるようである。たしかに両者の製作プロセスの違いは大きいものであり、学生が版の処理になれる迄はなかなか思うように版画を作ることが出来ないであろうし、一方タブローそのものの製作プロセスも時代によって大分変化しているので、むしろタブロー製作上の旧来の陋習にかなり問題があるようですが如何なものでしょうか。

(2) 版画製作上の基礎勉強の問題

3年次より版画専攻に入る場合、一般的に行なわれているデッサン、油彩等の実技実習では不十分であり写生からイメージによる構成、あるいはカラージュベインティング等々版画への導入がよりやり易くなるよう最初の2年間の一般的なカリキュラムを工夫すべきである。これは版画科として独立している場合はそれなりにカリキュラムが組み易いが、一般大学に於ては美術教育全体の手直し迄進めないと

なかなか困難であると思われる。

### (3) 版種の問題

どこの学校でも石版・銅版・木版・孔版の4版種を実習しているが、永い間の経験からこの4つで総ての版画を網羅すると思われ、基本的にはこれで良いのであろう。しかしこれらの実習時間はどうか、それぞれの版種を一通りこなそうと思うととも専攻の2年だけでは足りず、更に大学院へ進んで研究を続けないと十分な成果はあがらない。1・2週間の集中講義ではとても一つの版に喰いつくことは不可能である。版画専攻の3年次に於て基礎的実技の再履習をやることになってしまう。従って夏休みを利用しての製作でその不足を補っているのが実状である。今のところ考えられることは1・2年次での版画実習をもっと充実して行なうのが良いと考えられるがこれも他の授業との関係で思うように行かない。場合によっては1・2版種を徹底してやるのも一つの方法とも考えられる。

### (4) 一般教養科目との関係

(イ) 最近美術科学生で教職をとるものが特に増加しておりそのための授業数も多く、また教育実習でとられてしまう時間も問題である。その反面教育実習で版画を教える学生も増えて来ており、なかなか調整は難しい。

(ロ) 版画科として発足しているところの問題として実技以外に版画史・版画概論その他版画関係の学科の充実が焦眉の急となっている。一般美術では従来触れられていなかった分野だけに教える人、内容の検討が急がれている。

(5) その他版画材料論のような領域の研究も必要である。それは薬品公害とからんで学生・教師の健康管理の上からも早急な研究が必要となっている。

### (6) 版画製作に要する費用について

最近物価の上昇により版画製作に要する費用も馬

鹿にならなくなっている。また品物によっては入手困難な状況にあるものもある。例えば紙の問題にしても和紙・洋紙とも相当高価であり、学生の負担は急上昇しており授業を進めて行くのに支障を来たす事態が生じる怖れがある。この点カリキュラム上何を与え何が不必要かの検討が必要であろう。

(7) 版画を専攻して卒業して行った学生も相当数に及び、現在専攻希望の学生が年々増加している状況から見て、彼等が何を希望しどう考えているのかを知るために学生からアンケートをとったらどうかとの意見もありました。われわれも無責任に卒業生を送り出しているのではなく彼等学生が版画を専攻してどう自分の仕事に影響を与えているかを知る必要がある。

次に私見ではあるが版画の持つ特性を生かし一般美術教育の参考となるようにすること。具体的には版画を版画として別扱いして教えるのではなく、例えば銅版・石版等素描的性格を持つものを素描の授業の一環として取り上げること。あるいは木版・シルク等の平面処理に適したものを色彩による画面構成上の授業に適用する、更に写真整版・コピープリント等をそれに適した授業に適應させる等々考えられはしないか、今後の研究課題であろう。

最後に各大学の版画教育が画一化しないよう、それぞれの学校でのカリキュラム編成をどう進めるか、そのために共通の問題点をこれからも検討して行きたいと思います。皆様の御協力をお願いします。

## 廖 修平

僕は去年の6月から筑波大学に招聘されて、版画を教えている者です。第2回「大学版画展」を見て、このように各大学が集って展覧会を開くのは非常に素晴らしいことであり、これからの発展が大いに期待されるものであります。今年から筑波大学でも、この「大学版画展」に参加しております。それについて、二・三気づいた僕の所見を述べてみたいと思います。

まず第一に、国立でも公立でもよいから、「版画センター」の設立を提案します。このセンターの目的は、伝統的な日本版画的製版と刷りの保存、現代版画的表現技法の改革と促進を目差すものであり、主な活動として次のことを行なうてはいかかでしょうか。

まず、国際交流を行ない、外国の版画家や製版の専門家を招き、技法の交換を活発に行なうことです。それには単に話しだけでなく、色の刷り方、製版のしかたを実際に見ることが必要です。次に国際交流だけでなく、国内でも有名な方々は多数いらっしゃるのですから、そういう方々の技術教授や、せっかく「大学版画研究会」なるものを開くのですから、この機会を利用して、各大学の先生方の技術や作品のスライドなどによる交換会や研究会をぜひ行なうべきだと思うのです。なぜなら、現在の日本では、なかなかそういった技術交換の場が無いからです。僕は、ニューヨークから来て、このことが非常に残念でした。また、個人で海外に旅行したり、研修したりして来た方々のデモンストレーションや講演・技術報告なども行なえば、より広く各人が技術を身につけられ、ひいては、日本版画界全体の水準向上にむすびつくと思うのです。また、公立の版画センターで優秀な作品の収集や管理、展示などを行なえば、よりいっそう学ぶ所が多いのではないのでしょうか。

第二に、現在のところ関東近辺の大学に片よっているようですが、大学版画研究会例会を各大学で行なう時、30分でいいから、その大学の学内設備や学生作品、教授の指導方針などについて、紹介する時間がほしいのです。そうして、より良い所を学び改善してゆけたらと思うのです。今回は、多摩美大で例会がありました。多摩美大で例会を行なうことのメリットをこのことによって、引き出せたら良いのではないのでしょうか。

第三に、東南アジア・アメリカ合衆国などの各大学の学生との交流も将来の問題として考えてゆければいいのではないかと、それが現在の日本版画界また「大学版画研究会」の発展につながるものだと思います。

## ▶各大学における版画授業現状調査

吉本 弘

この調査は大学版画研究会会報第1号及び第2号に版画授業内容を掲載の8大学に愛知芸大を加え、会報第一号「各大学における現状調査表」に基づき各大学の協力を得た。

各大学それぞれの特色があり、自ずから授業形体も異なっている。例えばA図の京都芸大の版画基礎は年間4回の開講である。2回生以上の学生が卒業するまでの任意の時期にその中の1回を受講することは到底できなかったため、年間4回の集中実技があることのみを示した。B図を見ると東京芸大の場合は必修選択の学生70名とあるが、3版種の授業が行なわれているので延人数210名である。これは他の大学についても同じである。調査は4年制大学について行なったものなので、短大を持つ大学、殊に

武蔵野美大は別科もあり、これ等を常勤教員1名で授業を行なっている状態はここに表わされていない。殆どの大学が数字に表われた以上に学生数に対する教員数は不足している。施設についてもプレス機が小型であっても1台であり、教室も鉄筋と木造の別は示していない。

C図・D図のグラフは学生数を100名として算出した比較表である。

各大学共に版画授業の充実を熱望する学生の増加を教員の増員がないままその熱意によってカバーしようとしている実状が、1mm、2mmの棒グラフを作る時に痛みを残した。学生数に対する必要教員の定数があるからそれを守らなければいつまでも授業内容は充実しないし施設についても同様であることを、この調査を終えて感じた。

## ▶各大学における年間版画授業の形体〔A図〕

(昭和53年6月現在)

大学名	学年 所属	学 部				大学院等		大学院(博士後期課程)			研究生	
		1	2	3	4	1	2	1	2	3		
東京芸術 大 学	一般学生 (油 画)				■							
	油 画	■	■					大学院生				
	日 本 画 V.C.D・視覚デザイン			■								
	版画専攻生 (油 画)											
多摩美術 大 学	日 本 画			■	■							
	油 彫			■	■							
	油 画											大学院生
武蔵野 美術大学	油 絵			■								
	日本画・油絵 彫											
女子美術 大 学	油画科		■									研究生
日本大学 芸術学部	油画		■									
	版画											
日本造形 大 学	絵 画 専 攻		■									
	絵 画	■	■	■	■							研究生
東海大学 教養学部	一般学生 (VD映像)			■	■							
	芸術学科 美術学課程 実技系											
京都市立 芸術大学	版画基礎 2回生以上の 全学生			■	■							
	版画制作 造形コース・版画 基礎の終了者											専攻科生 西洋画
愛知県立 芸術大学	日 本 画			■								
	油 画											大学院生 研修生

■……………集中実技、その他

■……………版画専攻コース

▶各大学における版画授業の現状調査表〔B図〕

(昭和53年5月現在)

種別 大学名	版画専攻コース		受講学生					教員数				施設										
	有	無	専攻	必修	選択	その他	教授	助教	講師	助手	非常勤	教室面積 (m <sup>2</sup> )						版画プレス機台数				
												総面積	木版	銅版	石版	孔版	その他	総台数	木版	銅版	石版	孔版
東京芸術大学	○	△	31	70		△	1	1	△	5	500	70	111	148	70	101	20	1	5	11	2	1
多摩美術大学	○	△	67	69		△	1	1	1	3	1	447	149	149	149	△	18	△	5	13	△	△
武蔵野美術大学	△	○	△	100		△	△	1	△	△	3	400	186		214	△	14	1	3	9	△	1
女子美術大学	○	△	65	196	△	4	△	△	2	△	6	411	300			△	111	19	△	6	13	△
日本大学芸術学部	○	△	13	50	50	△	△	△	△	2	4	240	80	60	100	△	13	1	3	4	5	△
日本造形大学	○	△	33	120	160	△	△	1	1	△	2	150	150			△	14	△	4	6	4	△
東海大学教養学部	○	△	21	△	6	△	1	△	△	△	1	150	50	50	50	△	7	△	2	5	△	△
京都市立芸術大学	○	△	25	60	△	△	1	1	△	△	3	210	△	100	100	△	10	9	△	2	6	1
愛知県立芸術大学	△	○	35	10	△	△	△	△	△	△	5	402	55	73	91	△	183	11	1	3	7	△

▶各大学の版画授業における教員数ならびに施設比較表 (調査表〔B図〕より学生数100人として算出)

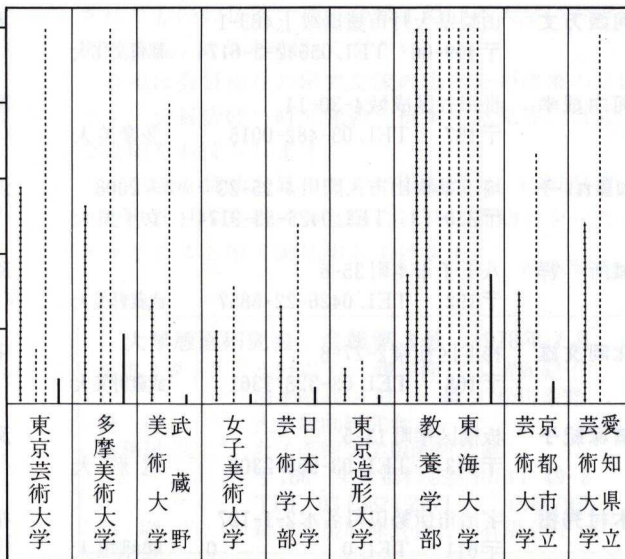
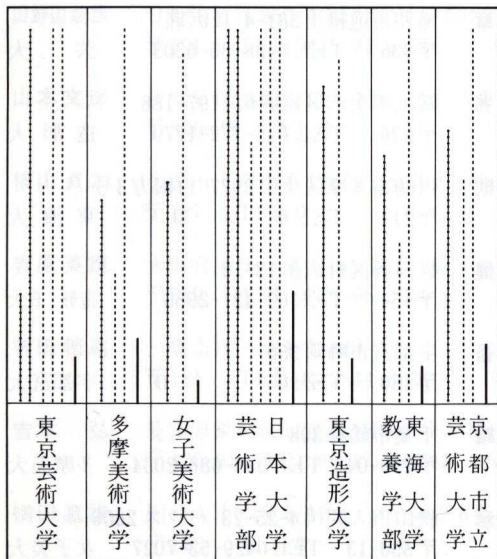
〔C〕版画専攻コース

種別 大学名	教員 (人)	教室 (m <sup>2</sup> )	プレス機 (台)
東京芸術大学	6	1,287	65
多摩美術大学	9	667	27
女子美術大学	3	461	29
日本大学芸術学部	15	1,846	100
東京造形大学	6	454	42
東海大学教養学部	5	714	33
京都市立芸術大学	8	800	36

〔D〕必修・選択コース

種別 大学名	教員 (人)	教室 (m <sup>2</sup> )	プレス機 (台)
東京芸術大学	3	570	29
多摩美術大学	9	648	26
武蔵野美術大学	1	400	14
女子美術大学	1	153	10
日本大学芸術学部	2	240	13
東京造形大学	1	54	5
東海大学教養学部	17	2,500	117
京都市立芸術大学	3	333	15
愛知県立芸術大学	0	487	24

(——教員数(常勤) 1%<sub>m</sub> = 1人)  
 (-----教室面積 1%<sub>m</sub> = 10m<sup>2</sup>)  
 (.....プレス機台数 1%<sub>m</sub> = 1台)



## ▶ 会員名簿

- |       |  |         |
|-------|--|---------|
| 阿部 浩  | 千代田区外神田2-18-7<br>〒101 TEL 03-251-1474                  | 武蔵野美大   |
| 相沢美則  | 杉並区久我山5-1-22<br>〒168 TEL 03-334-9521                   | 文化学院    |
| 秋元幸成  | 滋賀県大津市大谷町24-14<br>〒520 TEL 0775-25-7927                | 滋賀大学    |
| 有地好登  | 所沢市安松221-1<br>〒359 TEL 0 0 日 大                         |         |
| 東谷武美  | 埼玉県上福岡市駒林436-3<br>〒356 TEL 0492-63-4779                | 芸 大     |
| 稲田年行  | 町田市三輪町1939<br>〒194-01 TEL 044-988-3339                 | 岐 阜 大   |
| 今井治男  | 多摩市関戸547 シャルム聖蹟桜ヶ丘201<br>〒192-02 TEL 0423-73-0600      | 引 前 大   |
| 小野克子  | 世田谷区祖師ヶ谷2-2-4<br>〒157 TEL 03-482-6229                  | 女子美大    |
| 小作青史  | 世田谷区羽根木2-32-6<br>〒159 TEL 03-321-7221                  | 多摩美大    |
| 小山松隆  | 千葉県花見川9-11-301<br>〒281 TEL 0472-58-3949                | 日 大     |
| 大本 晴  | 札幌市中央区円山西町491<br>〒064 TEL 011-611-0722                 | 北海道教育大  |
| 太田 広  | 神奈川県横浜市旭区鶴ヶ峰1-72-2<br>〒236 TEL 045-371-2561            | 名古屋造短大  |
| 鎌谷伸一  | 横浜市金沢区平潟町31-1-814<br>〒236 TEL 045-781-1872             | 芸 大     |
| 河西万丈  | 山梨県大月市猿橋殿上483-1<br>〒409-06 TEL 05542-2-6174            | 都留文化大   |
| 河内成幸  | 世田谷区成城4-30-14<br>〒157 TEL 03-482-0015                  | 多摩美大    |
| 加藤れい子 | 埼玉県狭山市入間川4-25-23 ハウス2008<br>〒350-13 TEL 0425-53-9174   | 女子美大    |
| 城所 祥  | 八王子市本町35-6<br>〒192 TEL 0426-22-5857                    | 武蔵野美大   |
| 北岡文雄  | 杉並区和泉2-27-8<br>〒168 TEL 03-328-3361                    | 武蔵野美大   |
| 清塚紀子  | 板橋区幸町13-5<br>〒173 TEL 03-955-2300                      | 造 形 大   |
| 木村秀樹  | 宇治市伊勢田町名木2-1-127<br>〒611 TEL 0 0 嵯峨短大                  |         |
| 小林基輝  | 杉並区下井草3-15-8 ヒューステン205号<br>〒167 TEL 03-399-7640        | 女子美大    |
| 糸野憲治郎 | 愛知県愛知郡長久手町長湫下権田104-1 茜荘14号<br>〒480-11 TEL 05616-2-0978 | 名古屋造形短大 |
| 斎藤寿一  | 川崎市幸区塚越3-375<br>〒210 TEL 044-522-2007                  | 和 光 大   |
| 笹本 純  | 秋田県秋田市泉字嶽根166 三浦方<br>〒010 TEL 0188-33-5261             | 秋 田 大   |
| 清水昭八  | 小金井市梶野町4-16-27<br>〒184 TEL 0423-83-3733                | 武蔵野美大   |
| 島田章三  | 愛知県愛知郡長久手町芸大公舎5号<br>〒410-01 TEL 05616-2-0885           | 愛知芸大    |
| 白木俊之  | 長野市川中島町今里868-15<br>〒381-21 TEL 0 0 信 大                 |         |
| 田村文雄  | 小平市学園西町2-12-8<br>〒187 TEL 0423-43-7282                 | 女子美大    |
| 武市 勝  | 茨城県新治郡桜村並木4-912-204<br>〒300-31 TEL 0 0 筑波大             |         |
| 高橋貴和  | 宮城県名取市名取ヶ丘5-1-1<br>〒981-12 TEL 0 0 宮 城 大               |         |
| 津地威汎  | 徳島県徳島市吉野本町6-20-1 杉原マンション4号<br>〒770 TEL 0 0 徳 島 大       |         |
| 中林忠良  | 埼玉県上福岡市駒林437<br>〒356 TEL 0492-63-1970                  | 芸 大     |
| 野田哲也  | 武蔵野市吉祥寺東町2-23-24<br>〒180 TEL 0422-22-5837              | 芸 大     |
| 馬場 章  | 浦和市道祖土381-4 長沢荘<br>〒336 TEL 0488-86-6303               | 芸 大     |
| 馬場栲男  | 横浜市金沢区富岡町1197-186<br>〒236 TEL 045-772-1770             | 造 形 大   |
| 浜西勝則  | 川崎市多摩区生田2977 白根方3号<br>〒214 TEL 0 0 東 海 大               |         |
| 原 健   | 世田谷区野沢3-13-12<br>〒154 TEL 03-421-2980                  | 造形・日大   |
| 平川晋吾  | 宇都宮市峰町350<br>〒150 TEL 0 0 宇都宮大                         |         |
| 深沢幸雄  | 千葉県鶴舞308<br>〒290-04 TEL 043-688-2034                   | 多摩美大    |
| 福岡奉彦  | 狭山市入間川4-25-23 ハウス2006<br>〒350-13 TEL 0429-53-7027      | 女子美大    |



吹田 文明 大田区池上8-16-9  
〒143 TEL 03-752-1708 多摩美大

細田 政義 世田谷区祖師ヶ谷3-39-8  
〒157 TEL 03-482-3052 女子美大

前川 直 岩手県盛岡市茶畑1-1-6 グリーンビレッジ  
C-411 〒192-03 岩手大

舞原 克典 宇山市川田町1548-13  
〒524 TEL 07758-3-0028 京都芸大

松川 幸寛 狛江市宍戸北4-1-1 土屋方  
〒182 TEL 03-488-4967 多摩美大

松浦 昇 岐阜県大垣市上面二丁目唐  
〒503 TEL 0 0 大垣女子短大

松島 順子 太田区田園調布4-29-5  
〒145 TEL 03-721-3062 女子美大

馬 淵 聖 神奈川県茅ヶ崎市芹沢2511  
〒253 TEL 0467-51-1497 女子美短大

皆川 孝一 練馬区小竹町1-73 福寿荘6号  
〒176 TEL 03- 0 日 大

宮田 克人 高知県高知市朝倉乙870  
〒780 TEL 0 0 高知大

宮下登喜雄 府中市新町1-12  
〒183 TEL 0423-61-5634 福岡教育大

村上 文生 京都市右京区太秦原面影町6-1  
〒616 TEL 0 0 京都芸大

望月 詩子 西多摩郡五日市町伊奈810-4  
〒190-01 TEL 0425-96-1215 女子美大

山野辺義雄 日野市三沢850 高幡台団地6-501  
〒191 TEL 0425-91-9456 東海大

山本文彦 茨城県新治郡桜村天久保 芸術専門学郡内  
〒300-31 TEL 0 0 筑波大

横山 貞二 小平市上水本町1282 二恭荘2号棟D号  
〒187 TEL 0 0 一 般

吉原 英雄 大阪府高槻市東五百住町3-21-32  
〒569 TEL 0726-96-2286 京都芸大

吉田 穂高 三鷹市井ノ頭1-13-40  
〒181 TEL 0422-44-3923 女子美大

吉本 弘 愛知県愛知郡日進町岩崎元井ヶ17-97  
〒470-01 TEL 05617-2-3565 愛知芸大

横田 嘉雄 国分寺市本多4-17-6 ふじの荘6号  
〒185 TEL 0 0 一 般

渡辺 達正 調布市上石原2-20-1 箕輪コーポ201号  
〒182 TEL 0424-87-9476 多摩美大

渡辺 満 相模原市橋本5-25-5  
〒229 TEL 0 0 多摩美大

渡辺 明信 文京区向ヶ丘1-2-5  
〒113 TEL 03-813-9050 文化学院

廖 修平 杉並区荻窪1-1-19  
〒167 TEL 03-391-4554 筑波大

#### 故 人

神田 融 高松市新町1134-1  
〒761-01 TEL 0 0 香川大

吉野 由男 京都市南区唐橋花園町8  
〒601 TEL 075-691-3765 滋賀女子短大

#### ▶編集後記

常ならぬ世のこと、駒井先生の哀弔の涙のかわかぬうちに、香川大の神田融先生、滋賀女子短大の古野由男先生お二人方の悲報がとどきました。ここに謹んで哀悼の意を表するとともに、心から御冥福をお祈り申しあげます。

巻頭の挨拶は二代目会長に就任された吹田先生に、また筑波大学に外人客員教授として来日されている、ニューヨーク在住の廖先生には、素直な提案と叱咤をいただきました。廖先生は来春三月まで版画指導と版画室整備設置にあたられます。

中林先生の素材に関する基礎的研究の報告、小作先生からは新しく開拓された技法の発表、ともに実効多いものとなりましょう。

大学版画教育の状況報告グラフは吉本先生が調査されたものの抜萃です。会報1号「各大学における現状調査」と比較御覧ください。

会報は会員相互の研究交流の場、その成果の足跡です。会員皆様の研究発表・提案・意見等、自発的な投稿をお待ちします。

本年度も賛助会員の方々の御支援と、印刷発行にあたり新日本造形の大家様には特に御助力をいただきましたこと厚く御礼申しあげます。

清水昭八

#### 大学版画研究会 会報第3号 1978年7月

編集スタッフ 小野克子／鎌谷伸一／清塚紀子  
清水昭八／原 健／松川幸寛

発行 大学版画研究会  
事務局 女子美術大学版画研究室  
〒166 東京都杉並区和田1-49-8  
TEL 03 (382) 2271(代) 内線79番

印刷 新日本造形株式会社・有限会社 西川

## ▶賛助会員名簿

- |                        |  |                  |  |
|------------------------|--|------------------|--|
| 新日本造形                  | 中野区新井1-42-8<br>〒165 TEL 03-389-1221                          | 画 箋 堂            | 京都市下京区河原町五条上ル<br>〒600 TEL 075-791-6131         |
| サクラクレパス                | 千代田区神田三崎町3-1-16<br>〒101 TEL 03-263-4221                      | クラタ商店            | 大阪市鶴見区茨田諸口町1118<br>〒538 TEL 06-911-6561        |
| ヌーベルセンター               | 千代田区神田三崎町3-1-16<br>クレパスビル内ヌーベル<br>〒101 TEL 03-262-4221       | アート・コア・<br>ギャラリー | 京都市中京区寺町通り三条下ル一筋目東入ル<br>〒604 TEL 075-223-1760  |
| 大阪フォルム画廊               | 中央区銀座6-3-2 ギャラリーセンタービル5階<br>〒104 TEL 03-571-0833             | 酒井民雄             | 大垣市郭町3丁目 酒井書店<br>〒503 TEL                      |
| 日本版画保存会                | 川崎市多摩区登戸3460 吉沢英哲方<br>〒214 TEL 044-911-9041                  | 菊田商店             | 文京区本駒込3-8-2<br>〒113 TEL 03-821-7131            |
| 渡辺木版美術画舗               | 中央区銀座8-6-19<br>〒104 TEL 03-571-4684                          | 横田嘉雄             | 国分寺市本多4-17-6 ふじの荘6号<br>〒185 TEL                |
| 山田商会                   | 中央区八重州5-5<br>〒104 TEL 03-281-1667・8538                       | 武蔵野美術学園          | 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7<br>〒180 TEL 0422-22-8171        |
| レッドランタン版画舗             | 京都市東山区新門前通り仲之町236<br>〒605 TEL 075-561-6314                   | シロタ画廊            | 中央区銀座7-10-8 高橋ビル地下1階<br>〒104 TEL 03-572-7971~2 |
| 萩原市蔵商店                 | 千代田区神田紺屋町43<br>〒101 TEL 03-256-3591                          | 養清堂画廊            | 中央区銀座5-5-15<br>〒104 TEL 03-571-2471            |
| 芸大画翠                   | 台東区上野公園12-8 東京芸術大学内<br>〒100 TEL 03-821-7056                  | 阿部出版版画芸術         | 目黒区上目黒4-30-12<br>〒153 TEL                      |
| 光村図書出版                 | 品川区上大崎2-19-9<br>〒141 TEL 03-493-2111                         |                  |  |
| ペンテル                   | 千代田区東神田2-1-6<br>〒101 TEL 03-866-6161                         |                  |  |
| マルチプルアートセンター<br>(乃村工芸) | 港区芝浦4-6-4 乃村工芸社<br>〒108 TEL 03-455-1171                      |                  |  |
| ギャラリーカプセル              | 中央区銀座8-16-10 B401 堀江強志<br>〒104 TEL 03-541-4676               |                  |  |
| びけん(本店)                | 世田谷区尾山台3-33-5<br>〒158 TEL 03-702-2118                        |                  |  |
| 梶原商店                   | 渋谷区上原2-33-8<br>〒151 TEL 03-466-6117                          |                  |  |
| 文房堂                    | 千代田区神田神保町1-21<br>〒101 TEL 03-291-3441                        |                  |  |
| 日動画廊                   | 中央区銀座5-3-16<br>〒104 TEL 03-571-2553                          |                  |  |
| 画荘ヴィナス                 | 新宿区西新宿1-15-13 胖ビル内<br>〒160 TEL 03-346-2728                   |                  |  |
| 版画ギャラリー                | 京都市左京区熊野神社東入ル京都ハンディ<br>クラフト・センター 6F<br>〒606 TEL 075-761-0345 |                  |  |

■広告は原稿送附されたもののみ掲載させていただきました。

# 文房堂の版画材料

(木版・銅版・石版)

資料をご請求下さい

東京都千代田区神田神保町1-21 TEL (03) 291-3441(代)



# サクラ版画絵具

## 株式会社 サクラクレパス

良い版材は良い地金

版画用・銅板・亜鉛板・リト用・ジंक板・アルミ板

有限会社 **萩原市蔵商店**

東京都千代田区神田紺屋町43番地  
電話 東京(256)3591番(代表)

株式会社 **乃村工藝社**  
マルチプル・アートセンター  
東京都港区芝浦4丁目6番4号 / (03) 455-1171

石版画用ジंक研磨

版画用材料専門店 **クラタ商店**

大阪市鶴見区茨田諸口町1118  
TEL 06-911-6561

# 光村図書

〒141 東京都品川区上大崎2-19-9 / TEL (493) 2111

株式会社 **梶原商店**

東京都渋谷区上原2丁目33番8号  
電話 (466) 6117(代表)

現代版画

銀座ギャラリー

## カプセル

〒104 東京都中央区銀座8-16-10 B401  
TEL 541-4676

# 画材の専門店 **びびん**

版画材料

●本店・世田谷区尾山台3-33-5 ●多摩美術大学売店・八王子市鎌水1723  
TEL 702-2118 TEL 76-6636

●八王子市三崎町2-13  
TEL 25-5221

中央区銀座5丁目3番16号

株式会社 **日動画廊**

電話 (571) 2553

# ペンてる

水彩 (不透明水彩)

CRAYON

ペンてる株式会社

# PRINTING OIL COLOURS

版画絵具 油性 **5色セット**

NEU ヌーベルセンター

# 画 翠

東京都台東区上野公園  
芸術大学内 ☎ (821) 7056

# 養清堂画廊



YOSEIDO GALLERY  
中央区銀座5-5-15 TEL. 571-2471

洋画・デザイン材料・額縁・石膏像



株式会社 **画荘 ヴィーナス**

本店 〒460 名古屋市中区新栄町3-6  
TEL <052> 961-0591(代)

東京営業所 〒160 東京都新宿区西新宿1丁目15-13  
TEL <03> 346-2728 (胖ビル内)

版画科 1年修 石版・銅版・木版

# 武蔵野美術学園

武蔵野市吉祥寺東町3-3-7



# 大阪フォルム画廊

東京店 東京都中央区銀座6-3-2 ギャラリーセンタービル5階  
TEL 03-571-0833

名古屋店 名古屋市中区新栄町1-1 明治生命ビル15階  
TEL 052-962-5811

版画専門メーカー



# 新日本造形(株)

東京本社 〒165  
東京都中野区新井1の42の8 TEL 03-389-1221

大阪支社 〒540  
大阪市東区森ノ宮東之町421の3 TEL 06-943-1141

## 光林図書

## 森原市商

## 日動画

## 光林図画

## 新日本造形

## 光林図画

## 光林図画

## 光林図画

## 光林図画

## 大学版画研究会

事務局 女子美術大学版画研究室

〒166 東京都杉並区和田1-49-8 TEL. 03 (382) 2271 (代) 内線79番